

【学校教育目標】
～明るい未来を拓く～
社会に自立する生徒の育成
【校訓】 力強く 心豊かに たゆみなく

学校HP <https://www16.sapporo-c.ed.jp/kamishinoro-j/>

発行者：校長 山崎 武司

上 篠 路

修学旅行を振り返って

3 学年実行委員長

学年全体での成果は2つあります。1つ目は不測の事態に対処する力が向上したことです。鎌倉や横浜での自主研修で、時間が足りなかったり迷子になったりいろいろなハプニングが各班ありました。そのようなときに、班で話し合い、協力して改善策を考え、臨機応変に行動できたことがとても良かったです。2つ目は無事札幌に帰ることができたという点です。関東は北海道より大幅に気温が高く、熱中症になりそうなほど暑かったですが、全員自己管理を徹底し、互いに声をかけ合って水分補給や休憩をとって最後まで活動することができたことは大きな成果だと思います。改善点は、夜のホテルの過ごし方でした。いくつかの班で夜更かしによる指導があったそうですが、睡眠不足は次の日の体調不良や不慮の事故につながりかねません。それによってまわりの人たちに迷惑がかかることも考えられましたので、楽しむ時間と体を休める時間の切り替えをしっかりと行えるとより良かったと思います。

このメンバーで修学旅行に行けたことは自分の中で一生の思い出になりました。全体としてはきまりや時間を守り、声をかけあって行動できたことは、中学校最後の旅行的行事としてふさわしい修学旅行だったと思います。

この学びをこれからの学校生活にしっかりつなげ、卒業するその日まで学年の力を高めていきたいと思います。

お世話になった先生方、高い費用を出してくれた保護者の方々、お小遣いをくれたおじいちゃんおばあちゃん、ありがとうございました。

宿泊学習で学んだこと

2 学年実行委員長

僕はこの宿泊学習で学んだことが2つあります。

1つ目は、「視野を広くもつこと」です。集団行動や点呼のとき、自分のことだけでなく、周りの様子をしっかりと見ることがどれだけ大切かを学びました。

2つ目は、「責任をもって行動すること」です。僕は今回、総務係長として点呼や連絡の仕事を任されました。最初はすごく緊張したけれど、自分の役割を最後までやりきろうと努力しました。その中で、責任を果たすことの達成感と大切さを知ることができました。

1学期も、残すところあと1か月となりました。思い出してもらいたいの、僕たちの学年目標は「パズル」だということです。ですが今、そのパズルを完成させる邪魔をしまっているピースがあります。それが、「授業中の私語」です。私語が多くなると、自分だけでなく、周りの人の学習のチャンスも奪ってしまいます。宿泊学習で学んだ「周りを見る力」や「責任感」を普段の学校生活でも生かして、一人ひとりが授業に集中できる環境を作っていくことが、今の僕たちには必要だと思います。

また、学年目標の「パズル」を完成させるためには、生徒同士だけではなく、先生方との協力も欠かせません。僕たち生徒一人ひとりのピースと、先生方のピースがカチッとくみ合うことで、もっと素晴らしい学年になれるはずです。お互いに声をかけ合い、支え合いながら、みんなで最高のパズルを完成させましょう！

校外学習を振り返って

Ⅰ 学年実行委員長

今回の校外学習は「札幌市の魅力を知り、発信しよう」というテーマのもと、オリンピックミュージアムや北海道新聞、JR苗穂工場、札幌市防災センター、円山動物園、下水道科学館でのグループ研修を行いました。自分は、円山動物園を訪問し、円山動物園の見どころの講座を受けたり、実際に園内を見学して、円山動物園の魅力を実際に見たり、聞いたりすることができました。グループ研修を通して、普段暮らしている札幌の歴史や最先端の技術、豊かな自然の魅力を再発見し、もっと多くの人に発信したいという意欲が湧きました。

また、班行動では学年テーマ「かめ～一人一人が自分にできることを着実に行動する」を全員が意識しました。総務、生活、文化、保健の各係が、自分の役割を責任を持って果たしたことが、校外学習の大成功につながったと感じています。自分は、総務係として学年全体をまとめる仕事を行いました。結団式・解団式の企画運営や、班長として自分の班をまとめることを通して、集団に指示を伝えたり、みんなの意見を尊重しつつも、意見をひとつにまとめたりすることの大変さと難しさを学びました。やる気はあっても、リーダーとしてうまく振る舞えないと、みんなに迷惑をかけてしまうこともあるので、これからリーダーとしての力を高めて行き、みんなのために尽力できる人になりたいと強く思いました。

今回の校外学習を通して、一歩ずつ着実に進む「かめ」のように、一人一人が自分にできる仕事を全うする大切さを学ぶことができました。そのなかで仲間一人一人のよさや魅力にも気付くことができました。すばらしい仲間と協力してやり遂げた達成感を忘れず、これからのクラスや学年での学校生活にも生かしていきたいです。

今年度の学校祭について

10月2日(金)に予定している第38回学校祭ですが、今年度は日常の学習成果や探究活動の発表をより深く、色濃くお伝えする充実したプログラムを中心として構成いたします。これに伴い、例年実施しておりました「飲食バザー」につきましては、給食を利用する形に変更させていただきますので、ご理解いただければと思います。なお、例年行っていた上篠路中学校どら焼きについては今年度も販売する予定でございます。

そのスマホの使い方、本当に大丈夫！？Vol.1

「うちの子がネットいじめの加害者に？」そんなことはない信じたい。しかし、SNSやチャットアプリが日常に溶け込んだ今、子どもが軽い気持ちで書き込んだ一言が、誰かを深く傷つけてしまうことがあります。悪意がなくても、結果的に加害者になってしまうケースは少なくありません。ネット上では、顔が見えない分、言葉の重みが軽く感じられがちです。「冗談のつもりだった」「みんなが言っていたから」そんな理由で投稿された言葉が、相手にとっては深刻な攻撃になることもあります。特に子どもは、言葉の影響力や相手の受け取り方を十分に理解していないことが多く、無意識のうちに加害行為に加担してしまうことがあります。保護者としてできることは、まず「ネットの言葉にも責任がある」という意識を子どもに持たせることです。画面の向こうには感情を持った人がいること、そして一度発信した言葉は簡単には消せないことを、具体的な事例を交えて伝えると効果的です。また、家庭での会話も重要です。「こんな投稿を見たけど、どう思う？」「もし友達が傷ついていたらどうする？」といった問いかけを通じて、子ども自身が考える力を育てましょう。禁止や監視だけではなく、対話を通じて価値観を共有することが、予防につながります。ネットは便利で楽しい場所ですが、同時に「言葉の責任」が問われる場でもあります。子どもが知らずに誰かを傷つけないよう、保護者としてできることはたくさんあります。まずは今日、子どもと「ネットでの言葉」について話してみませんか。

保護者向け啓発コラム 札幌市教育委員会より

編集後記

今号では、学校行事の中でも貴重な経験となる旅行的行事についてお届けしました。3年生の修学旅行では見学地での真剣な眼差しや集団行動のルールをしっかりと守ろうとする姿に最高学年としての自覚を感じました。2年生は植松電機にてロケットをつくり、空高く打ち上がった様子を見つめる姿から、1年生は札幌自主研修において、各地点で撮った笑顔あふれる集合写真の表情から、中学生としての大きな成長を感じました。学校という枠を飛び出し、社会の中で学んだ経験は、これからの学校生活の大きな糧となるはずです。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。（教務係）